

事務所通信 リソース

1月号 VOL. 21

税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : cyuou@csk-i.com



明けましておめでとうございます。昨年の10月31日、世界人口が70億人を突破しました。70億人全員と会うには、一人に1秒ずつとしても約222年かかります。人生という限られた時間の中で会う人の数には限りがあり、縁が深まる人はさらに一握り。70億分のいくつかのご縁を大事に今年も過ごしたいものですね。

年頭のごあいさつ

「津波の発生時刻に合わせて鳴るサイレン、ガレキの上で父と子が海に向って合掌している」

行方不明の妻(母)と娘(妹)を探し続けて3日目の写真でした。

死者、行方不明者の数2万人余は統計数字に過ぎず、一人一人に起きた悲しみは今年になっても癒されることはないと思います。

国家とは、国土と国民があってはじめて成り立つ共同体です。その国民の生命と財産を守り、国土を保全し、社会を維持するための“会費”が税なのでしょう。

今度の震災でどれほど多くの人が被災地に多額の寄附をし、あるいはボランティアに参加したか。これは国民の義務などとは言われなくても公平な課税、必要なところに税が配分されるという信頼される国家があれば、私たちは喜んで“会費”を負担するのだ、という事を証明したのだと思います。

私共 税理士業は、この国家の根源である税を通じてお客様と国を結び付ける役割があるのではないかと改めて思っております。

今年も中央総合会計はお客様の事業の存続、成長、発展のため、又経営者の皆さまに安心を提供するため努力してまいります。

又、この努力が今回の被災者の救済の力につながるものと信じております。

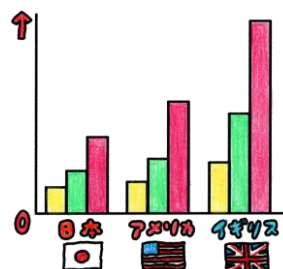
本年が皆さまにとりまして良い年であることをご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。



税理士法人 中央総合会計
代表税理士 井内 敏 樹

【日本が25万円なのに対してアメリカは…】

「日本の税金は高い？それとも安い？」こんな疑問を抱いたことはないでしょうか。そこで今回は、所得税・個人住民税の負担について他の国と比較してみました。給与所得者(会社員など)で家族構成が夫婦と子ども2人の場合、負担は次のようになります。



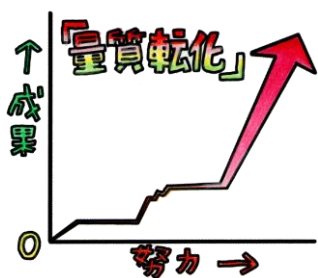
まず給与が500万円の場合、年間に負担する所得税・住民税は、日本が25万円、アメリカは46.3万円、イギリスが80.3万円になります。次に給与が700万円の場合では、日本は53万円、アメリカが90万円、イギリスは148.1万円。そして給与が1,000万円の場合、日本が123.9万円、アメリカは184万円、イギリスが268.1万円となります。この数値から察すると、どの給与額でも日本の負担が一番小さいことがわかります。また、給与500万円を見てみると、給与に対する税負担の割合が、日本は5%なのに対してイギリスは3倍以上の約16%もあります。このことから、日本は所得が少ない人ほど税の負担が小さいとも言えます。しかし、この他に社会保険料などの社会保障の負担分があります。また逆に、さまざまな給付制度もあります。これらは各国でそれぞれ異なるため、一概に今回の数値だけで「日本の税金が安い高い」と判断することは難しそうですね。(2011年7月現在の財務省データより/邦貨換算レート:1ドル=81円・1ポンド=132円)

【今月の教えてキーワード: サunkコスト】

ある事業や活動を行う際に支払った費用や時間など、その途中で事業の撤退や縮小、活動を中止する選択をしても決して戻ることがない費用のことを埋没費用とも言う。投資の評価・意思決定においてはサunkコストを考慮に入れず、評価時点以降の支出と期待できる利益を判断基準とするよう推奨されている。投資した金額や時間、労力を惜しみ、追加投資で回収できると錯覚して非合理的な行動をとることをサunkコスト効果と言う。

【「商売の量質転化」は、101段目に訪れる！】

発明王のエジソンは、「私が成功した秘訣はたった一つしかない。それは、成功するまでやり続けたからである」と言ったそうです。松下幸之助も似たような名言を遺しています。今はできないことも、できるまでやればできるようになります。しかし、やり続けて成功する人はほんの一握りです。



多くの人が途中で挫折していくのは「努力」と「成果」の相関関係を誤解しているからではないでしょうか。努力した分だけ成果が出るのは確かでも、努力と成果は正比例しません。新しいことを始めたとき、スタートからしばらくはなかなか成果が出ないのが普通です。この「なかなか成果が出ない期間」は想像以上に長く、ところがある段階を超えると急激に成果が現れて、その後は少しの努力で一気に成果が上がっていくというのが脳のシステムだそうです。これを「量質転化」と言いますが、このシステムを知らない人は「こんなに努力しているのにちっとも成果が出ない」と嘆いて、成果が出るのを待たずにやめてしまうのです。パフォーマンスは基本的に努力量と比例しないものです。ですから「使えない」段階のほうがはるかに長いわけで、量質転化が起こって無意識にできるようになったとき、はじめて「使える」段階になることをちゃんと覚えておきたいものです。

商売をしていれば「なかなか成果が出ない期間」もあります。そこを乗り越えるには根性論よりも「スモールステップ」という工夫の方が実践的でしょう。確実な一歩を刻んでいくこと。これがスモールステップであり、その第一歩は「今できることをする」です。先を急ぐあまり2段飛ばしで一気に階段を駆け上がってみても、20段目あたりで足腰にガタがきてへたりこんでしまっは本末転倒というものです。上手くいかない時期はじっと我慢して、スモールステップで目先の小さな目標をこなし、「できること」を増やしながら100段の階段を確実に上ったとき、101段目で「商売の量質転化」が訪れるのです。

商売をしていれば「なかなか成果が出ない期間」もあります。そこを乗り越えるには根性論よりも「スモールステップ」という工夫の方が実践的でしょう。確実な一歩を刻んでいくこと。これがスモールステップであり、その第一歩は「今できることをする」です。先を急ぐあまり2段飛ばしで一気に階段を駆け上がってみても、20段目あたりで足腰にガタがきてへたりこんでしまっは本末転倒というものです。上手くいかない時期はじっと我慢して、スモールステップで目先の小さな目標をこなし、「できること」を増やしながら100段の階段を確実に上ったとき、101段目で「商売の量質転化」が訪れるのです。